

ゲゼル遺跡におけるエジプト官邸跡

渡 邊 浩 明

I はじめに

後期青銅器時代（紀元前 16～13 世紀）の古代パレスチナは実質的にエジプトの支配下に置かれており、エジプトに隷属するパレスチナ各都市の支配者達と、巡回するエジプト人官僚によってこの地域の統治はなされていたと考えられる（Higginbotham 1998:69）。この時代の古代パレスチナ遺跡には（第1図）、支配者の官邸と目されるエジプト様式の住居跡が出土していることから、これらの遺跡を基盤として政治的、経済的、また軍事的支配をエジプトが行っていたと考えられている（Leonard 1989:31; Hoffmeier 2001:6）。本論では、各都市における官邸跡を概観した後、ゲゼル遺跡にもエジプト官邸跡があったのかどうか、という疑問に回答を試みる。

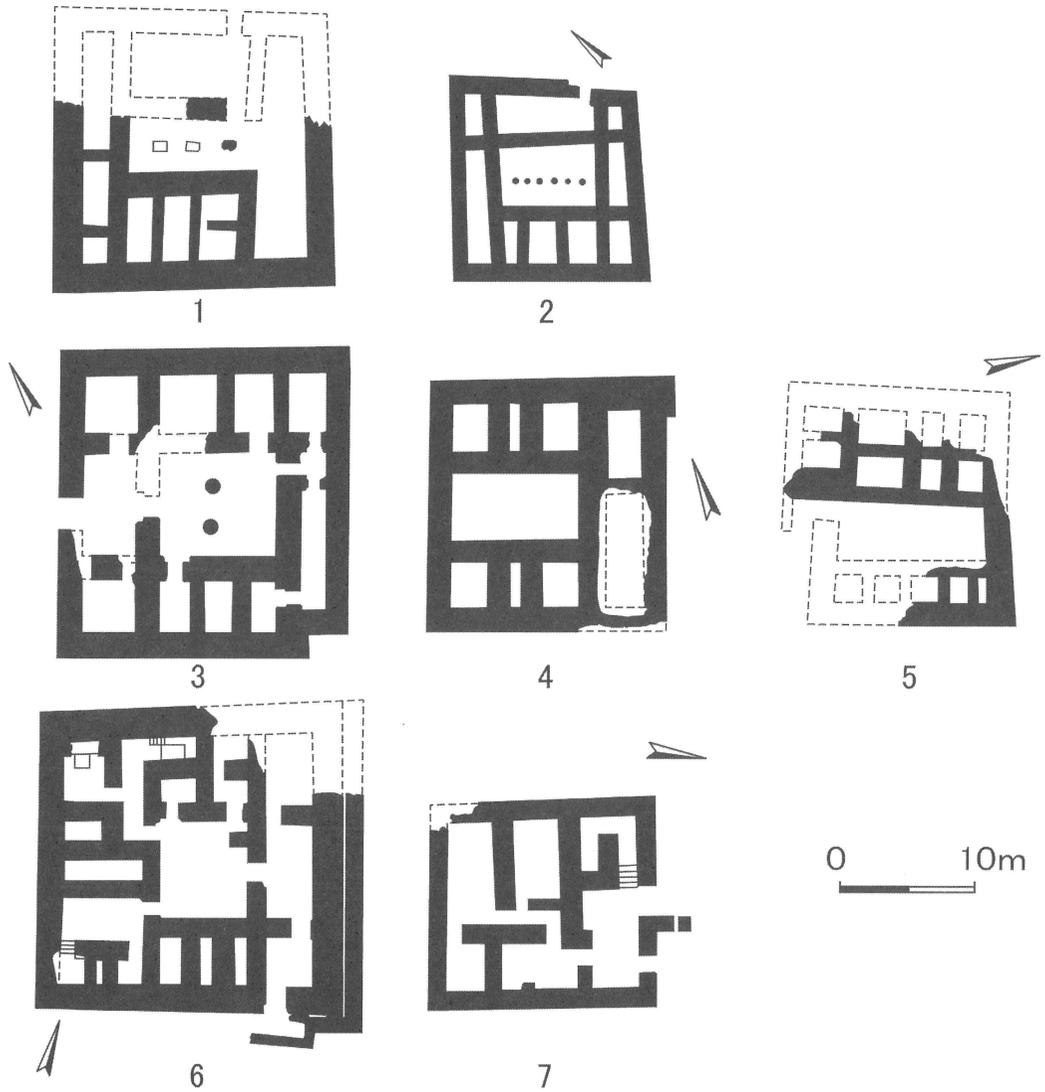
II 官 邸 跡

官邸跡はパレスチナ考古学の初期の段階で既に認識され始めていた。テル・エル・ファラ (S) 遺跡の発掘の際、ペトリーはある重要な住居跡を発見し、この都市の支配者またはエジプト人官僚の官邸跡と呼ん



第1図 パレスチナ遺跡図

でいる (Petrie 1930:17; Hasel 1998:93; 第2図の6)。



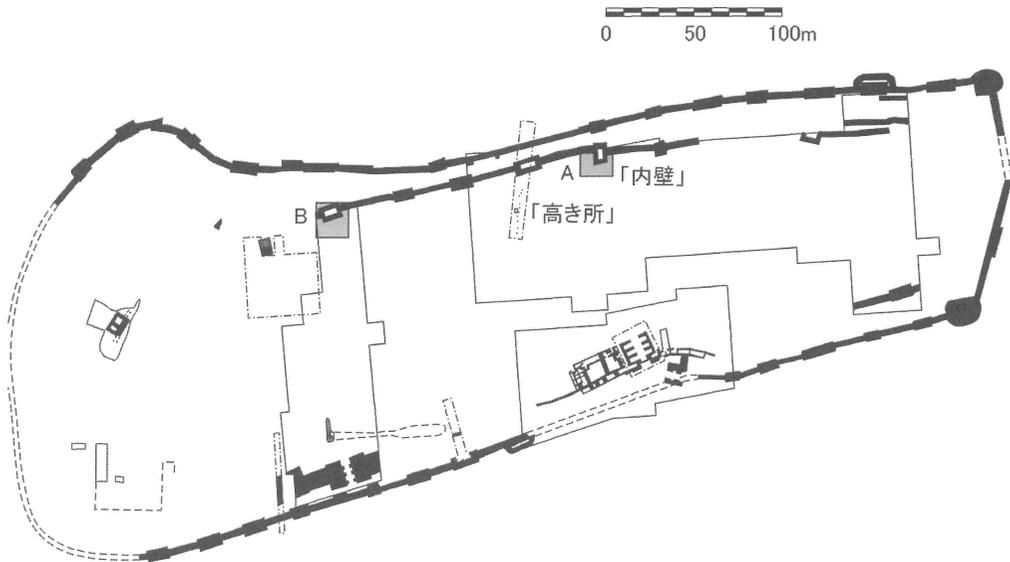
第2図 官邸跡 1テル・セラ 2テル・マソス 3ベト・シャン 4テル・エル・ヘシ 5テル・ジェメ
6テル・エル・ファラ (S) 7アフエック (Hasel 1998:95; Oren 1984: Fig.2)

似通った住居跡は、ベト・シャン第VI層にもみられる (James et al 1993:1-5; McGovern et al 1993:1-3; Mazar 1997:69-70; 第2図の3)。他にもテル・セラ第IX層 (Oren 1984:39-45; 2図の1)、テル・ジェメ第J K層 (Hasel:1998:93-94; 2図の5)、テル・マソス第III A層 (Kempinski & Fritz 1977; 第2図の2)、テル・エル・ヘシ City Sub 第IV層 (Oren 1984:46-47; Weinstein 1981:18-19; 第2図の4)、

アフエック第X - 1 2層 (Kochavi 1981:78;第2図の7)、そしてデイル・エル・バラでも出土している (Killebrew et al 2006:100)。

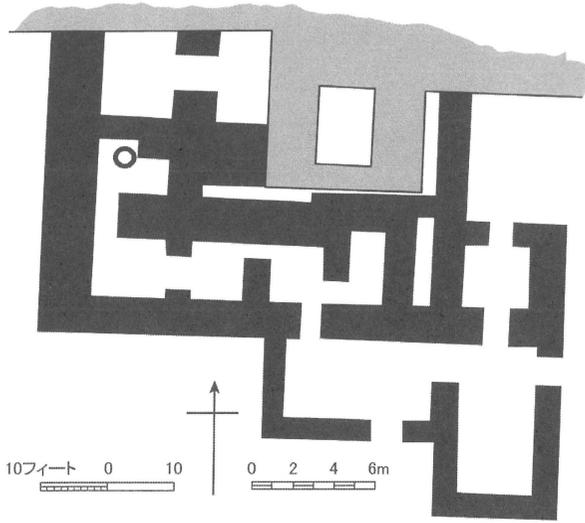
これら住居跡の共通点は、ほぼ正方形の形をしていること、石の礎石なしにレンガが積まれていること、入り口がおおむね角にあること、中央に中庭のような空間があること、その周りに部屋や階段が配置されていることである (Oren 1984:52)。この建物のプランは、テル・エル・アマルナの特権階級の住居のものに似通っている (Killebrew 2005:58)。細部の違いはあるものの、エジプトの住居様式がパレスチナの建造物の伝統に取り入れられたと考えられる。また、これらエジプト様式は、中庭式、三部屋式などいくつかのタイプに分類が可能である (Higginbotham 2000:263-301)。

これらの住居跡がエジプト人によって居住された証拠もいくつか挙げられる。ベト・シャンでは、パレスチナの遺跡にもかかわらず彫像や碑文を含むエジプトの遺物が多数出土しており、ここがエジプトの要塞であったことは間違いない。アフエックでは、住居跡の破壊層から粘土板文書が出土しており、それはウガリットの知事である Takuhlina という人物から Haya というエジプトの高官に宛てたものである (Owen 1981:1-3)。このことは、この高官がアフエックに滞在していたことを示している (Hasel 1998:95)。テル・セラで出土した神聖文字の碑文は、エジプト人もしくはエジプト人に訓練を受けた書記官が、税として取り立てた穀物の記録をとっていたことを示している (Goldwasser 1984:86)。

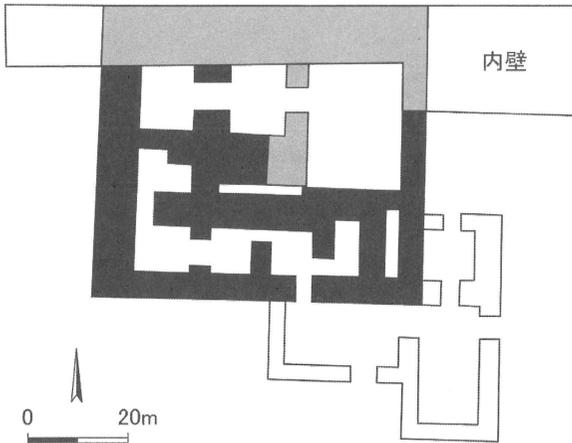


第3図 ゲゼル遺跡図 (Dever et al 1974:Plan 1; Bunimovitz 1988:71)

Ⅲ ゲゼルの官邸跡—論争と評価



第4図 Macalister の原図 (A地区)
(Macalister 1912:207; Singer 1986:28)



第5図 Singer による提案図 (Singer 1986:30)

ゲゼル遺跡 (第3図Aの部分) においては、初期の発掘者 Macalister が官邸跡のようなものがあったことを示唆している (1912:206; 第4図)。後に、確かにこれは官邸跡であるという指摘が Singer (1986) によってなされた。それによると、ここで出土した遺物の中に大きな石台が含まれており、それには神聖文字で「黄金」を意味する文字の半分が刻まれていた。また、この建物が他のパレスチナ遺跡の官邸跡に類似していることが理由として挙げられる (Singer 1986:28-30; 1994:288)。Singer の提案は第5図のようになる。

Singer の提案に対して Maeir (1988) は、この住居跡はさらに古い時代、中期青銅器時代に位置づけられるべきであり、官邸跡としては認められないと主張している。また、エジプトの土器も欠如していることから、エジプト人の居住はなかったと考えている (1988:66)。一方、Bunimovitz (1988) は、官邸跡はB地区にもあるのではないかと主張し (第6図)、その図面の提案をしてい

る (第7図)。

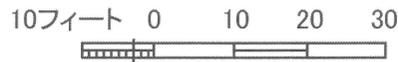
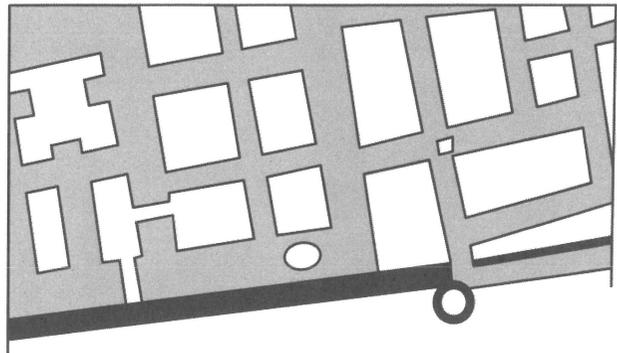
Higginbotham (2000:279) は、A地区の住居跡について、正方形であり分厚い壁を持っていることは確かだが、それだけでは官邸跡としては不十分ではないかと指摘している。この住居跡の中央には他の遺跡でみられるような正方形もしくは長方形の部屋はない。また、Maeir (1988)

の指摘にもあるように、年代も確定できていないのでは、という主張である。さらに、B地区の住居跡についても、中央には他の遺跡で見られるような正方形もしくは長方形の部屋はないと指摘している (Higginbotham 2000:281)。

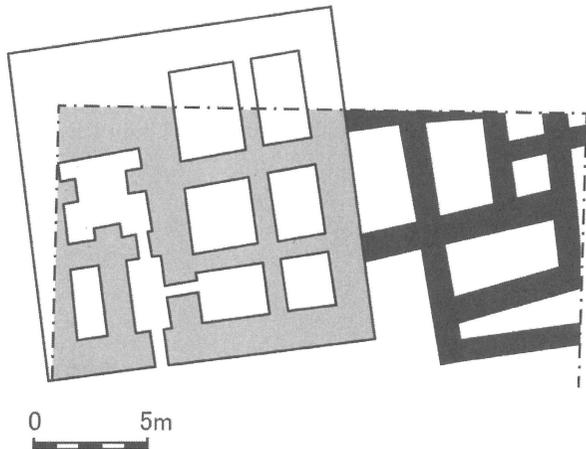
Macalister が発掘したA地区の住居跡は最も重要な建造物と考えられたので、初期の発掘では取り去ることはしなかったと記されている (Macalister 1912:206-9)。しかし、再発掘を手がけた Dever によると、残念なことにこの住居跡の床面はすべて初期の発掘で掘り抜かれてしまい、場所によっては岩盤まで発掘されてしまっていたことが分かった。それだけでなく、大部分の壁そのものが除去されており、平面図と合致していなかった(第8図)。このような困難さはあるものの、この住居跡が後期青銅器時代のものであることは確認された (Dever 1993:40)。従って、時代が違うのではないかという主張は否定できる。

初期の発掘が20世紀初頭に行われたため発掘技術が未熟であったこと、そして Macalister が一人で現地の住民を指揮したため統制がきかなかったことは事実である。筆者とともに再発掘に参加した Hasel (1998:93) が指摘しているように、このような状況では、遺物そのものが発見されずに捨てられてしまった可能性が高く、エジプトの土器は見つかっていないという主張は残念ながら当てはまらないと言えよう。むしろ、エジプトの土器等はあったと考える方が妥当である。

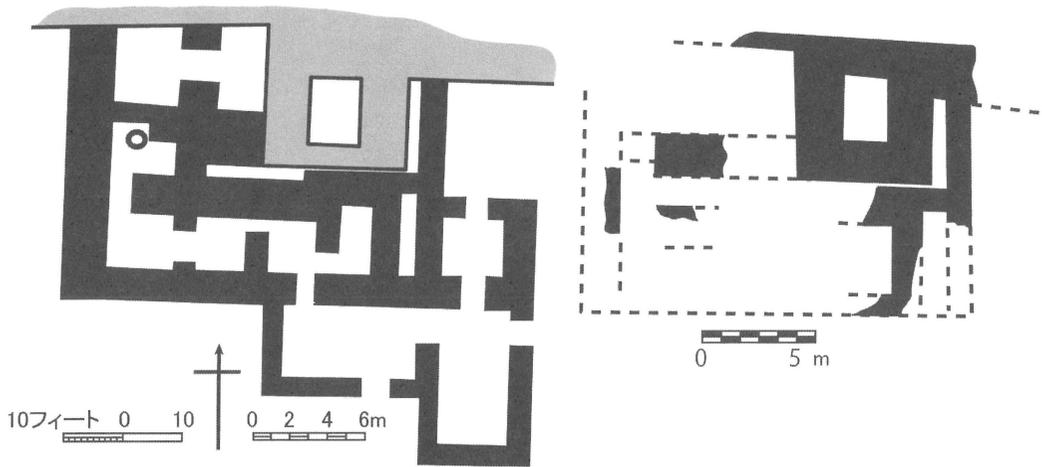
ゲゼル遺跡で出土した粘土板文書はファラオからゲゼルの支配者に宛てた手紙であり、この支配者がファラオに会いに来ないこと、またエジプト人の役人が正しくもてなされていないことを



第6図 Macalister の原図 (B地区) (Macalister 1912:PL. XLIX:2; Bunimovitz 1988:73)



第7図 Bunimovitz による提案図 (Bunimovitz 1988:73)



第8図 Macalister の原図 (左側) と Gezer 再発掘の結果 (右側) (Dever 1993:40)

記している。そして、雄牛を7頭要求している (Albright 1943:28-30; Ross 1967:63-64)。

アマルナ文書によると、ゲゼルの支配者 Milkilu がエジプトに上り、ファラオに謁見していることが分かる。ところが、Milkilu がエジプトから戻ると、パレスチナにおけるエジプト人官僚 Yanhamu が、銀2000枚と妻子を差し出すように要求したと記されている (EA, No.270: ANET 486)。また、別の文書ではファラオが Milkilu に弓兵の長官 Hanya を送り、物資と引き換えに奴隷の女性を送るよう指示している (ANET 487)。これらの文書から、ゲゼルの町に支配者がいたこと、エジプト人官僚がゲゼルを訪れていたことは間違いないと考えられる。

IV おわりに

本論はパレスチナ各都市における官邸跡を概観し、ゲゼル遺跡にもエジプト官邸跡があったのかどうか検討した。ゲゼルの町の支配者と訪問するエジプト人官僚が存在したことを、限定的ではあるが発掘の結果に照らし合わせると、現段階ではゲゼル遺跡の官邸跡は2箇所可能性があると言えよう。

引用文献

- ANET see Pritchard 1969
- Albright, W. F. 1943 A Tablet of the Amarna Age from Gezer. *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, (92), 28-30.
- Bunimovitz, S. 1988 An Egyptian "Governor's Residency" at Gezer? - Another Suggestion. *Tel Aviv*, (15-16), 68-76.

- Dever, W. G., Lance, H. D., & Wright, G. E. 1974 *Gezer II: Report of the 1967-1970 Seasons in fields I and II*. Jerusalem: Annual of the Nelson Glueck School of Biblical Archaeology.
- Dever, W. G. 1993 Further Evidence on the Date of the Outer Wall at Gezer. *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, (289), 33-54.
- Goldwasser, O. 1984 Hieratic Inscriptions from Tel Sera in Southern Canaan. *Tel Aviv*, 11, 77-93.
- Hasel, M. G. 1998 *Domination and Resistance*. Leiden: BRILL.
- Higginbotham, C. R. 1998 The Egyptianizing of Canaan. *Biblical Archaeology Review*, 24(3), 36-43,69.
2000 *Egyptianization and Elite Emulation in Ramesside Palestine: Governance and Accommodation on the Imperial Periphery*. Leiden: BRILL.
- Hoffmeier, J. K. 2001 Aspects of Egyptian Foreign Policy In the 18th Dynasty in Western Asia and Nubia. *An updated and reworked version of a paper presented at the American Research Center in Egypt Annual Meeting at UCLA (April 25, 1998)*, 1-10.
- James, F. W., McGovern, P. E., & Bonn, A. G. 1993 *The Late Bronze Egyptian Garrison at Beth Shan: A Study of Levels VII and VIII*. Philadelphia: UPenn Museum of Archaeology.
- Kempinski, A., & Fritz, V. 1977 Excavations at Tel Masos (Khirbet El-Meshash). *Tel Aviv*, 4, 136-158.
- Killebrew, A. E., Goldberg, P., & Rosen, A. M. 2006 Deir el-Balah: A Geological, Archaeological, and Historical Reassessment of an Egyptianizing 13th and 12th Century BCE Center. *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, (343), 97-119.
- Killebrew, A. E. 2005 *Biblical Peoples and Ethnicity*. Atlanta: Society of Biblical Literature.
- Kochavi, M. 1981 The History and Archeology of Aphek-Antipatris: A Biblical City in the Sharon Plain. *The Biblical Archaeologist*, 44(2), 75-86.
- Leonard, A. 1989 Archaeological Sources for the History of Palestine: The Late Bronze Age. *The Biblical Archaeologist*, 52(1), 4-39.
- Macalister, R. 1912 *The Excavation of Gezer, vols. I-III*. London: Murray.
- Maier, A. M. 1988 Remarks on a Supposed "Egyptian Residency" at Gezer. *Tel Aviv*, (15-16), 65-67.
- Mazar, A. 1997 Four Thousand Years of History at Tel Beth-Shean: An Account of the Renewed Excavations. *Biblical Archaeologist*, 60(2), 62-76.
- McGovern, P. E., Fleming, S. J., & Swann, C. P. 1993 The Late Bronze Egyptian Garrison at Beth Shan: Glass and Faience Production and Importation in the Late New

- Kingdom. *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, (290-291), 1-27.
- Oren, E. 1984 "Governor's Residencies" in Canaan under the New Kingdom: A Case Study in Egyptian Administration. *Journal of the Society for the Study of Egyptian Antiquities*, 14, 37-56.
- Owen, D. 1981 An Akkadian Letter from Ugarit at Tel Aphek. *Tel Aviv*, 8, 1-17.
- Petrie, W. 1930 *Beth-Pelet I (Tell Fara)*. London: British School of Archaeology in Egypt.
- Pritchard, J. B. 1969 *Ancient Near Eastern Texts Relating to the Old Testament with Supplement* (3rd ed.). Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Ross, J. F. 1967 Gezer in the Tell el-Amarna Letters. *The Biblical Archaeologist*, 30(2), 62-70.
- Singer, I. 1986 An Egyptian "Governor's Residency" at Gezer? *Tel Aviv*, (13), 26-31.
- 1994 Egyptians, Canaanites, and Philistines in the Period of the Emergence of Israel. In I. Finkelstein & N. Na'aman (Eds.), *From Nomadism to Monarchy* (pp. 282-338). Washington: Biblical Archaeology Society.
- Weinstein, J. M. 1981 The Egyptian Empire in Palestine: A Reassessment. *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, (241), 1-28.